

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	福井県	市町村名	越前市		越前市教育委員会
派遣日	令和4年12月26日(月) 11:00~16:30 11:00~12:00 市外国人児童生徒教育協議会 13:45~14:45 研修講義1 「子どもの言語発達」 ・第二言語習得のプロセス ・言語発達と発達障害 休憩 15分 15:00~16:15 研修講義2 「言語能力の測定法」 ・言語能力測定ツール (JSL 児童生徒のための対話型アセスメント) 16:15~16:30 質疑応答 ~16:35 諸連絡・解散				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 <input checked="" type="checkbox"/> 派遣 <input type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/> 遠隔				
派遣場所	越前市生涯学習センターeホール				
アドバイザー氏名	齋藤ひろみ氏				
相談者	・越前市教育委員会教育振興課 (担当指導主事 朝倉匡哉) ・研修対象者 外国人児童生徒教育担当教員 日本語指導担当者 市関係職員				
相談内容	1 情報交換・外国人児童生徒支援施策への指導助言 ・外国人就労者の情勢 ・外国人児童生徒の低年齢化の課題 ・他自治体の取り組み 2 研修 ・子どもの言語発達 (第二言語習得のプロセスの説明・言語発達と発達障害への理解) ・言語能力の測定法 (言語能力測定ツールの説明・JSL 対話型アセスメントの実践事例)				
派遣者からの指導助言内容	1 情報交換・外国人児童生徒支援施策への指導助言 ・他市町の取り組み プレスクールの複数回実施(大垣市) NPO 法人との協力体制(川崎市) ・就学前教育の充実(幼稚園・子ども園等での支援人材の活用) ・外国人も支援側にまわる仕組みづくり (防災リーダー・体育協会委員・読み聞かせボランティア) ・キャリアモデルの充実 2 研修 ・問題解決や課題解決の過程で、日本語を学んでいく指導の工夫				

	<ul style="list-style-type: none">・子どもの実態把握の観点（多面的・複数の目・定期的）・指導に際しての目標の明確化<ul style="list-style-type: none">①生活におけるコミュニケーションのための日本語の力をつける。②教科等の学習に参加するための日本語の力をつける。③アイデンティティ形成・自己実現にむけて言葉を使う力をつける。・実態に合わせて、学習プログラムを組み合わせた個別の指導計画作成・萌芽的リテラシーの不足を補う活動の充実・アイデンティティを安定させ、将来像を描くための活動を充実・学習者が中心になり、直面する課題を解決する遂行課程での日本語運用<ul style="list-style-type: none">※本物のコミュニケーションを経験※協働しながら体験や具体物・視覚情報等による支えのある状態で、 教科の内容に関する探究活動を行い、気づき、理解したことを表現・整理・学びの連続性<ul style="list-style-type: none">（インプット→気づき→理解されたインプット→インテイク→統合 →アウトプット→フィードバック）・JSL カリキュラムの授業づくりの要点<ul style="list-style-type: none">①学習経験／学力等から内容決定、内容理解を優先して授業づくり②教科等の目標と日本語の目標を設定③授業展開の工夫④活動ごと日本語の表現を設定⑤学習活動に参加するための支援の工夫
相談後の方針 の変化、今後の 取組方針等	<ul style="list-style-type: none">・日本語指導におけるアイデンティティの確立の重要性や将来を見据えたキャリアモデルの必要性を研修等で周知していく。・市施策や学校の取り組みの中に、支援される側から支援する側への移行する流れを生み出し、外国人の保護者が積極的に参加、活躍ができる機会をつくる。・「個別の指導計画」の改善を図り、外国人児童生徒の在籍校の外国人児童生徒教育担当教員や日本語指導担当者、担任との連携をさらに強化充実させていく。・国や他の自治体が活用している教材や指導計画の工夫等について、積極的に情報交換する機会を設ける。・JSL カリキュラムの考え方を活かし、外国人児童生徒が楽しみながら学ぶための授業づくりを推進する。

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。